

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価 岐阜県立東濃実業高等学校 学校番号 40

1 学校教育目標	○地域の未来を創出する人材の育成 (1) 他者とのかかわりを通して自己を見つめ、豊かな人間性を備えた生徒を育てる。 (2) 確かな教養に裏付けされた専門的知識・技術を有し、地域の未来を見据えて主体的に学び続ける生徒を育てる。					
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・将来のリーダーに必要な、公共の精神と対話・コミュニケーション力を身に付け、仲間と協力して課題解決することができる生徒(うごかす力) ・基礎学力を着実に身に付け、自分自身の将来を見据えながら自ら学び続ける意欲を身に付けた生徒(つなぐ力) ・グローバルな視点で地域社会の将来を展望し、商業、生活産業の各分野で、スペシャリストとして活躍する力を身に付けた生徒(つくりだす力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの個性や適性に応じた学びを実現するためのカリキュラム編成ときめ細やかな指導の実施 ・ICTを活用し、自ら学び続ける意欲を持たせるための「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進 ・SDGsを意識し、変化する産業構造を見据えながら地域の大学や産業界との連携、協働による実践的な専門教育を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や生徒会活動を含めた学校でのあらゆる活動を通して、自己を見つめ、仲間と協働し、人間性を高めようとする生徒 ・向上心を持ち、自ら学び続けようとする主体性のある生徒 ・商業・生活産業に関わる学習内容に興味があり、地域社会で活躍する「夢」に向かって努力する意欲のある生徒 			
3 現状の分析	○商業科及び生活産業科を併置する専門高校として、特色ある専門教育を実施し成果をあげている。 ○地域と連携した地域貢献活動やボランティア活動、挨拶・身だしなみやマナー指導の取組が評価されている。 ▲昨年度、入学志願者が定員に満たない状況であった。					
4 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、商業と生活産業の教育目標達成のために地域や企業等と連携して実践的な学びの推進をする。 ・学習指導及び部活動指導その他校務分掌に関わる長時間勤務や多忙化解消に向けた取組の推進をする。 					
5 今年度の具体的な重点目標	◇基礎学力を着実に身に付け、自分自身の将来を展望し、主体的・対話的で深い学びを通して、自ら学び続ける意欲を身に付けた生徒を育成する。					
年 度 目 標		年 度 末 (途中) 評 価				
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
生徒指導 特別活動	①校則の見直し	①生徒、保護者、地域等の声	①生徒会・保護者からの要望の検討	B	○生徒主体での学校行事の実施 ○相談しやすい環境の充実 ▲身だしなみ指導の見直し	B
	②「新しい生活様式」の徹底	②コロナ感染者数	②マスクの着用、健康チェックの徹底	B		
	③言語能力の育成を図り、地域社会の発展を担う人材の育成	③アンケート	③工夫した行事等の実施及び活発化	A		
学習指導 進路指導	①基礎基本を重視し、個別最適化を目指した学習指導の実践	①定期考査及び検定合格状況	①成績不良者の微増及び情報処理・簿記・英語の検定合格率の上昇	B	○個別最適な学び、基礎学力定着を目指した学習 ○基礎力診断テストの事前・事後指導の充実 ○ICT機器活用授業 ▲転退学者の増加 ▲高い進路目標への挑戦	
	②キャリア教育の計画的・組織的な指導	②進路結果	②進路希望の100%実現	A		
	③主体的・対話的な深い学びができる環境の実現	③授業評価、研究授業	③ICT機器の活用	A		
専門教育	①地域や企業と連携し、実践力やコミュニケーション力、創	①アンケート	①・授業に満足している 96.5% ・地域や企業と連携し、実践的な教	A	○地域や企業との連携事業の実施	

	造力を育成		育を推進している(よくあてはまる、ややあてはまる) 83.1%		○デジタル化社会への対応 ▲世界の動向に目を向けた取組み ▲空調設備が設置されていない商業・家庭の実習室の整備及び老朽化した空調設備の更新
	②世界の動向を見据え、伝統的な産業文化の継承・創造に関する教育の充実	②学校運営協議委員等からの感想等	②学習成果発表会を実施し、その様子をケーブルテレビやYouTubeで配信	B	
	③施設・設備の整備	③アンケート、	③・施設・設備は、学習環境の面ではほぼ満足できる(よくあてはまる、ややあてはまる) 生徒 88.2% 保護者 76.7%	B	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月26日

- スクール相談員の常駐や人権啓発センターの活用など、コロナ禍でも生徒のための活動ができています。
- 先生方が各分掌で熱心に協議され、ご尽力いただいている。
- コロナ禍においても地域のイベントに参加してもらい感謝している。
- ▲自転車のヘルメット着用についての対応が今後の課題である。
- ▲頭髪や身だしなみについて、高校生としてふさわしいものである必要がある。
- ▲広く地域住民に東濃実業を知ってもらおうイベントの開催や学校を開放することで地域との交流が深まり、地域密着型の学校となる。

13 来年度に向けての改善方策案

- ・生徒の学びの状況を分析・検討・協議し、有効な指導を検討します。
- ・学習の様子や活動成果等を地域や中学校等、広報活動の充実を図ります。
- ・本校の支援者確保や、本校で“学びたい”と思う学校を目指し、広報戦略の立案と実行をします。
- ・より難易度の高い学校へチャレンジする進学指導を行います。
- ・PTAや学校運営協議委員等、外部の方による面接指導の導入を検討します。
- ・担任や学年、部顧問との連携を図り、早期から心のケアや悩みの解消等に向けた対応に取り組みます。